

第2次

安曇野市スポーツ推進計画

後期計画

令和6年3月

『笑顔あふれる活力みなぎる
健康スポーツ都市 安曇野』をめざして



スポーツには、日々の生活や社会に活力を与えるなど、優れた力や価値があることを新型コロナウイルスの感染症拡大によって再認識させられました。

新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの社会活動や生活様式に大きな変化をもたらしただけでなく、スポーツ活動にも多くの影響を及ぼしました。

また、国は令和4年3月に第3期スポーツ基本計画を策定、長野県は令和5年3月に第3次スポーツ推進計画を策定され、社会状況の変化によって生じた課題等に対応した内容に改定がされています。

安曇野市においても、このような変化や新たな課題に対応していくため、平成29年度に策定した第2次安曇野市スポーツ推進計画の見直しを行いました。

本計画では、スポーツを通じた共生社会づくりやSDGsへの貢献のほか、スポーツを「ささえる」取り組みや安曇野市の特徴でもあるアウトドアスポーツの環境を活かした取り組みを本編に追加しています。

市民の皆様が笑顔で健康な暮らしを送りながら、様々な交流を推進する施策展開を図ってまいりますので、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに本計画の改定にあたり、ご尽力いただきました安曇野市スポーツ推進審議会委員の皆様をはじめ、貴重なご意見をいただきました市民の皆様、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

令和6年3月

安曇野市長 太田 寛

目 次

第1章 計画に関する基本事項	1
1. 計画策定の意義・目的	1
2. 計画の性格と位置付け	2
3. 計画の期間	2
4. スポーツのとらえ方	3
第2章 安曇野市のスポーツを取り巻く環境	4
1. スポーツを取り巻く環境の変化	4
2. 行政のスポーツに関する取組動向	7
第3章 計画の目指すところ・目標	10
1. 将来像	10
2. 基本目標	11
第4章 実現のための施策	12
基本目標1 市民の多様なライフスタイルに応じたスポーツ参加の促進	13
基本施策① 子どものスポーツの推進	13
基本施策② 「気軽さ」で初心者参加を促すスポーツ推進	15
基本施策③ ライフステージとニーズに応える「スポーツの場」づくり	16
基本施策④ 効果的なスポーツ情報サービス	17
基本施策⑤ 公共スポーツ施設の快適性・利便性の改善	18
基本目標2 「する」スポーツを「ささえる」体制・しくみの充実	19
基本施策⑥ 地域でささえるスポーツ推進体制の基盤づくり	19
基本施策⑦ 健康増進に関わる多様な主体の連携強化	21
基本施策⑧ 総合型地域スポーツクラブの運営支援と新たな体制の具体化	23
基本目標3 安曇野の魅力を活かしたスポーツによる絆・交流・活力の創出	24
基本施策⑨ 障がい者スポーツを広める場と体制づくり	24
基本施策⑩ アウトドア・スポーツを核としたまちづくり	25
基本施策⑪ 「する」「みる」「ささえる」スポーツを通じた多様な交流の拡大	26

第5章 計画の推進及び進捗管理	27
1. 計画の推進	27
2. 数値目標による管理	27
3. 計画の進捗管理	27

第1章

計画に関する基本事項

1. 計画策定の意義・目的

安曇野市では、平成30年度に安曇野市のスポーツをめぐる様々な状況や市民意識、将来の動向等を勘案し、安曇野市のスポーツに関する概ね10年先を見据えた施策を示す「第2次安曇野市スポーツ推進計画」を策定し、必要な施策を進めてきました。

この間、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、社会経済活動の停滞や社会構造、行動や生活様式に大きな変化が生じ、スポーツの分野でも2020東京五輪の1年延期、各種大会やイベントの延期や縮小、学校での子どもたちの運動や行動に一定の制限が余儀なくされるなど、大きな影響が生じました。一方で、こうした変化により、スポーツの日々の生活や社会に活力を与える効果や優れた力や価値が再認識されることにもなりました。

本計画では、平成30（2018）年度～令和9（2027）年度を計画期間として定めた第2次計画の方向性を考慮しつつ、このような動向や変化を踏まえて前期（平成30年度～令和4年度）までの取組みを振り返り、令和6年度～9年度までの後期期間の取組みを定めます。

計画の法的位置付け		国	県	安曇野市
本計画は、スポーツ基本法第10条の地方スポーツ推進計画に相当します。第9条に基づいて定める国のスポーツ基本計画を参酌して定めるものとされています。 第10条の条文には『地方公共団体（以下「特定地方公共団体」という。）にあっては、その長は、スポーツ基本計画を参酌して、その地方の実情に即したスポーツの推進に関する計画（以下「地方スポーツ推進計画」という。）を定めるよう努めるものとする』と示されており、本計画はこれに基づいて定める計画です。 長野県では、令和4年度に長野県スポーツ推進計画の第3次計画を策定しています。	H13(2001)	スポーツ振興基本計画 (H13～H22) スポーツ振興法の規定に基づき計画策定		
	H18(2006)	計画改定		
	H23(2011)	スポーツ基本法 施行	長野県 スポーツ振興計画 (H20～H24) 国のスポーツ振興基本計画を参考に長野県独自の計画を策定	安曇野市 スポーツ振興計画 (第1次推進計画) (H23～H29) スポーツ・レクリエーション活動を推進するための基本的な方向性を定める
	H24(2012)	スポーツ基本計画 【第1期基本計画】(H24～H28)	長野県 スポーツ推進計画 (H25～H29) 今後のスポーツ振興のために必要な具体的施策の推進計画	安曇野市 公式スポーツ施設整備計画 (H27)
	H25(2013)	2020年東京五輪開催決定		
	H26(2014)	障がい者スポーツ事業が厚労省から文科省へ移管		
	H27(2015)	スポーツ庁創設		
	H29(2017)	スポーツ基本計画 【第2期基本計画】(H29～H33)	長野県 第2次 スポーツ推進計画	第2次安曇野市 スポーツ推進計画 H30～R9 を対象
	R3(2021)	東京オリンピック・パラリンピック競技大会		
	R4(2022)	スポーツ基本計画 【第3期基本計画】(R4～R8)	長野県 第3次 スポーツ推進計画 (R5～R9)	

図1 上位計画の変遷と本計画との関係

2. 計画の性格と位置付け

- ① 本計画は、国のスポーツ基本計画、長野県スポーツ基本計画の理念を踏まえ、安曇野市及び安曇野市教育委員会(当時)が今後10年の期間を対象として、安曇野市内でのスポーツ推進に関する基本的な方向性を定めたものです。
- ② この計画は、安曇野市におけるスポーツ推進を総合的・効果的に推進するために、市民、地域、学校、行政、その他関係機関が連携を図りながら取り組むための指針となるものです。
- ③ 国の第3期スポーツ基本計画が令和3年度に、県の第3次長野県スポーツ推進計画及び安曇野市総合計画の後期基本計画が令和4年度にそれぞれ策定されています。その内容を平成30年度に策定した本計画にも反映させ、後期計画としてとりまとめます。

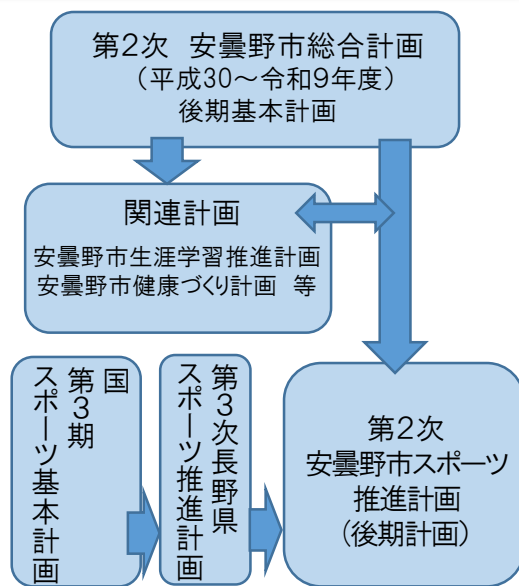


図2 上位計画と本計画との関係

3. 計画の期間

計画の対象期間は平成30（2018）年度から令和9（2027）年度までとし、次の2つの視点に重点を置いて計画を定めます。

- ① 10年間（平成30（2018）年度から令和9（2027）年度まで）を見据えての基本方針の設定
- ② 後半4年（令和6（2024）年度から令和9（2027）年度まで）の間に取り組むべきことの明確化

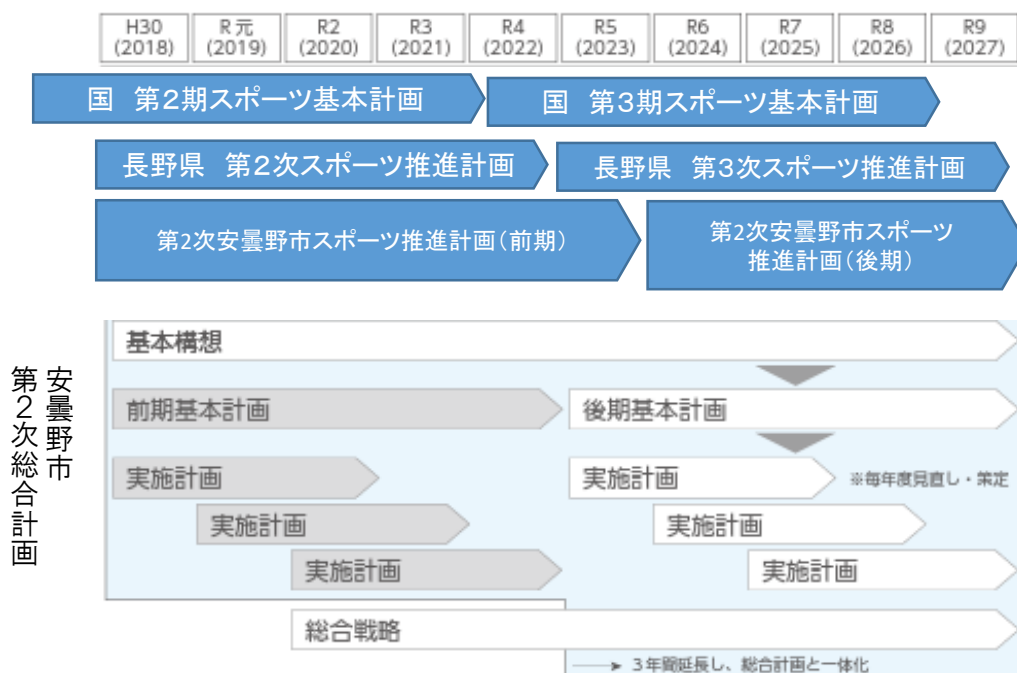


図3 上位・関連関連と本計画の計画期間の相互関係

4. スポーツのとらえ方

本計画の根拠であるスポーツ基本法前文や第2条及び国のスポーツ基本計画におけるスポーツの位置付けや具体像を踏まえ、本計画におけるスポーツのとらえ方を整理します。

スポーツ基本法 前文

スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進、精神的な充足感の獲得、自律心その他の精神の涵(かん)養等のために個人又は集団で行われる運動競技その他の身体活動。

国のスポーツ基本計画

スポーツには、競技としてルールに則り他者と競い合い自らの限界に挑戦するもの、健康維持や仲間との交流など多様な目的で行うものがあり、例えば散歩やダンス、健康体操、ハイキング、サイクリングもスポーツとしてとらえられる。

スポーツは、「する」「みる」「ささえる」という様々な形での「**自発的な**」参画を通して、人々が感じる「**楽しさ**」や「**喜び**」に本質を持つもの（「Well-being」の考え方にもつながる）

第2次安曇野市スポーツ推進計画

本計画では、国のスポーツ基本計画の考え方と同様に、健康増進や体力向上、楽しみなどの意図を持って、余暇時間に計画的に行われる活動を対象としてとらえる。

一方で、健康増進法に沿った身体活動推進の取り組みも連携するべく、安曇野市での暮らしのなかでの身体活動の特徴なども踏まえた計画を検討するものとする。



図4 身体活動と運動の違い

図の出典：新しい身体活動基準2013身体活動指針(アクティブガイド)に基づいた保健指導 独立行政法人国立健康・栄養研究所 宮地元彦

第2章

安曇野市のスポーツを取り巻く環境

1. スポーツを取り巻く環境の変化

国では令和3年度に第3期スポーツ基本計画を策定し、令和4年度～8年度の5年間の取組みを進めています。そのなかで、下記の4つの変化を例に挙げ、第2期スポーツ推進計画期間中の社会の変化を振り返っています。

中長期的な基本方針に沿った具体的な施策を検討・実践するにあたり、スポーツを取り巻く環境や社会状況の移り変わりとともに、**基本的方針の指す内容や、実現するための手立は大きく変化。**

例えば、

「人生」	働き方や生活様等々の ライフスタイルの変化 、「人生100年時代」と言われる既存の ライフステージ・ライフコース の変化
「社会」	情報化社会・技術の進歩（リアルとデジタルの融合等）、 様々な視点や価値観を共有しあう多様性を尊重する声の高まり
「世界」	グローバル化・国際化の進展（新型コロナウイルス感染症の影響前から生じていた流れの ポストコロナ社会 ）における展望
「未来」	人口減少社会を迎えるなかでの 「持続可能性」の課題 。SDGsの展開（何を、どのような形で残していくか。その際、スポーツはどのような 貢献が可能なのか ）

本計画改定の背景として踏まえるべき変化

図5 第3期スポーツ基本計画の概要資料(12ページ)より抜粋

こうした認識も共有しながら、本計画の後期計画検討に先立ち、平成30年度～令和4年度までの期間（本計画の前期計画期間）における様々な変化を振り返り、安曇野市のスポーツを取り巻く環境の特徴や後期計画に向けての課題を整理します。

（1）感染症蔓延による社会の変化

令和2年から急速に拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、あらゆる世代のスポーツ活動が大きな制限を受け、体力の低下やストレスの増加、スポーツを核にした地域における交流の不足など、我々の日常生活に多大な悪影響を及ぼしました。一方で、その反動的な効果として、スポーツには、日々の生活や社会に活力を与えるなど、優れた力や価値があることを再認識することとなりました。

（2）共生社会への関心の高まり

人々の価値観やライフスタイルが多様化し、人口減少により地域社会の担い手や労働力の減少・不足が懸念される中、様々な背景・価値観を持つ人々が活躍できる共生社会を実現する必要性が高まってきています。安曇野市では、令和4（2022）年4月に「安曇野市多様性を尊重し合う共生社会づくり条例」を施行しました。年齢や性別（性自認・性的指向）、国籍、障がいの有無などに関わらず全ての人がお互いを認め合い、多様性を尊重する共生社会の実現に向けた取組みは、スポーツ推進においても重要です。

これまででも障がい者スポーツの参加機会の拡大や理解の促進等で実現に取り組んできていますが、今後もより一層力を入れていく必要があると考えられます。

(3) スポーツを支える担い手育成の必要性

少子化の進展、専門性のある指導者の不足、部活動指導による教員の長時間勤務の問題等により、今まで学校が主体として担ってきた部活動の形態を見直し、地域が主体となる新たなスポーツ環境の整備を目指すことが必要となっています。

また、総合型地域スポーツクラブやスポーツ少年団等、地域におけるスポーツ活動を充実させ、幼児期の子どもや運動を得意としない子ども、障がいのある子ども等を含めた多様な子どもが参加しやすい環境を整備することが求められています。

(4) 令和5年度以降の市の将来ビジョンの明確化

令和4年度には、令和5年度から令和9年度までを対象期間とする第2次安曇野市総合計画後期基本計画が検討されました（令和5年4月策定・公表）。前期計画策定以降の様々な社会の変化を踏まえ、将来ビジョンを「自然、文化、産業が織りなす 共生の街 安曇野」とし、その実現に向け、安曇野が持つ多様なポテンシャルを引き出すとともに、誰もが活躍できる社会の構築を目指すこととしています。

また、アウトドア・スポーツを楽しめる豊かな環境や、市民の芸術・文化活動が活発な地域としての特色など、既に存在する数多くの魅力を高め、市内外の方に価値として認識してもらうため、価値創出プロジェクトを設定し、重点的、施策横断的に取り組むこととしています。

価値創出プロジェクト

誰もが活躍する共生のまち

- ・年齢、性別、性的指向、国籍や障がいの有無などの多様性を尊重します。
- ・さまざまな人の活躍を促すことで、まちにさらなる活気を生み出します。

アウトドア・スポーツの聖地

- ・豊かな自然を生かしたアウトドア・スポーツ環境を整備し、安曇野を代表するコンテンツとしての確立を目指します。
- ・アウトドア・スポーツを通じた観光資源や交流活動の促進を図ります。

選ばれ続けるまち、安曇野

- ・子育て世帯や移住者にとって魅力ある生活環境・就労環境を整備します。
- ・人口減少対策を講じるとともに、人口減少に適應した地域をつくります。

文化・芸術中核都市の実現

- ・安曇野市の文化・芸術環境を活かした教育を推進します。
- ・文化・芸術活動を通じた交流人口を創出するとともに、市内での文化・芸術活動を活性化させます。

AZUMINOブランドの発信

- ・安曇野市の魅力・価値を戦略的に国内外に向けて発信します。
- ・安曇野市での体験で得られる付加価値を創出します。

図6 価値創出プロジェクト（安曇野市総合計画後期基本計画より）

(5) SDGs への貢献

SDGs（持続可能な開発目標）は、持続可能でより良い社会の実現に向けて令和12（2030）年までに達成を目指す国際目標で、国のみならず、地方自治体が策定するあらゆる計画において、この目標を念頭に置いた取組を推進していくことが求められています。

SDGsには全部で17の目標（下図参照）があり、スポーツ推進の分野ではとくに「③すべての人に健康と福祉を」や「④質の高い教育をみんなに」、「⑩住み続けられるまちづくりを」などの目標達成に対する貢献が期待されます。



図7 SDGs 17の目標

2. 行政のスポーツに関する取組動向

前期計画期間中に策定されたスポーツ推進に関する上位計画・関連計画の特徴を把握し、後期計画に反映すべき観点を抽出します。

(1) 第3期スポーツ基本計画（国：スポーツ庁） 令和4年3月策定

- 第2期計画期間中に生じた、様々な社会状況の変化を踏まえ令和4年度(2022)から5年間の第3期スポーツ基本計画を策定
- 第2期計画において掲げた、①スポーツで「人生」が変わる、②スポーツで「社会」を変える、③スポーツで「世界」とつながる、④スポーツで「未来」を創るという4つの中長期的な基本方針は今後も踏襲。
- 中長期的な基本方針を踏襲しつつ、第2期計画期間中に生じた社会変化や出来事等を踏まえると、国民がスポーツを「する」「みる」「ささえる」ことを真に実現できる社会を目指すには、3つの新たな視点が必要であることを示し、必要な取り組みを具体化。

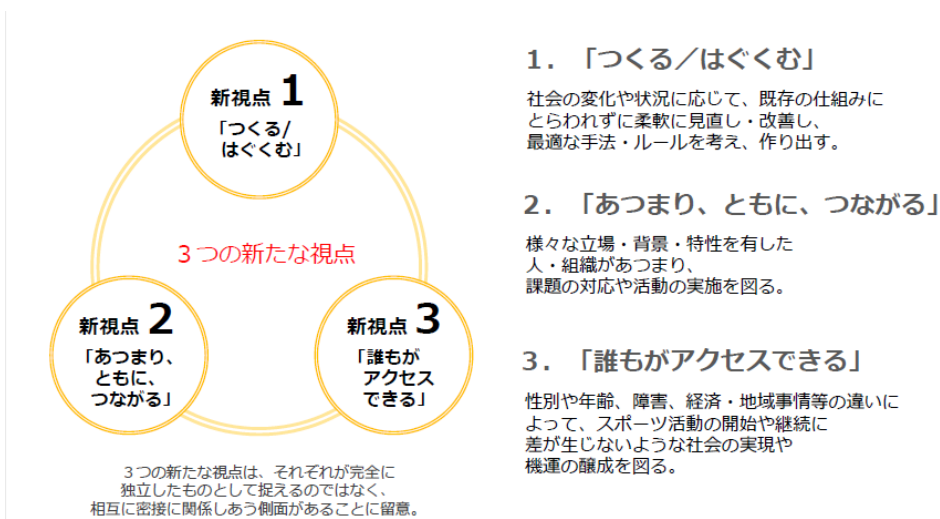


図8 第3期スポーツ基本計画での3つの新たな視点

(2) 長野県 第3次スポーツ推進計画（令和4年度策定）

- 第2次計画で設定した目指す姿や基本目標等をベースとしたうえで、社会状況の変化や新たな課題に対応し、「第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会」終了後のスポーツ振興も見据えた計画として策定。
- 令和5年度（2023）～令和9年度（2027）を目標年度とする5年間の計画
- 県民一人ひとりがその自発性のもとに、年齢や性別、障がいの有無等を問わず、各々の適性や関心に応じて、スポーツを「する」「みる」「ささえる」という様々な形で参画できる環境を整えることで、スポーツの持つ力や価値をより多くの県民が実感し、県民一人ひとりの生活や心を、スポーツを通じてより豊かにするといったウェルビーイングの実現を目指し、「スポーツの力で切り拓く長野県の未来」を基本理念としている。

これらの計画の概要を8ページにそれぞれ示します。

【参考1】第3期スポーツ基本計画の概要（スポーツ庁ホームページ）

第3期スポーツ基本計画（概要）

【第2期計画期間中の総括】

- ① 新型コロナウイルス感染症：
 - ▶ 感染拡大により、スポーツ活動が制限
- ② 東京オリンピック・パラリンピック競技大会：
 - ▶ 1年延期後、原則無観客の中で開催
- ③ その他社会状況の変化：
 - ▶ 人口減少・高齢化の進行
 - ▶ 地域間格差の広がり
 - ▶ DXなど急速な技術革新
 - ▶ ライフスタイルの変化
 - ▶ 持続可能な社会や共生社会への移行

こうした出来事等を通じて、改めて確認された

- ・「楽しさ」「喜び」「自発性」に基づき行われる本質的な『スポーツそのものが有する価値』（Well-being）
- ・スポーツを通じた地域活性化、健康増進による健康長寿社会の実現、経済発展、国際理解の促進など『スポーツが社会活性化等に寄与する価値』

を更に高めるべく、第3期計画では次に掲げる施策を展開

1. 東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に資する重点施策

持続可能な国際競技力の向上

- 東京大会の成果を一過性のものとせず、持続可能な国際競技力を向上させるため、
 - ・NFの強化戦略プランの実効化を支援
 - ・アスリート育成バスウェイを構築
 - ・スポーツ医・科学、情報等による支援を充実
 - ・地域の競技力向上を支える体制を構築

共生社会の実現や多様な主体によるスポーツ参画の促進

- 東京大会による共生社会への理解・関心の高まりと、スポーツの機運向上を契機としたスポーツ参画を促進
- オリパラ教育の知見を活かしたアスリートとの交流活動等を推進

スポーツを通じた国際交流・協力

- 東京大会に向けて、世界中の人々にスポーツの価値を届けたスポーツ・フォー・トゥモロー（SFT）事業で培われた官民ネットワークを活用し、更なる国際協力を展開、スポーツSDGsにも貢献（ドーピング防止活動に係る人材・ネットワークの活用等）

大規模大会の運営ノウハウの継承

- 新型コロナウイルス感染症の影響下という困難な状況の下で、東京大会を実施したノウハウを、スポーツにおけるホスピタリティの向上に向けた取組も含め今後の大規模な国際競技大会の開催運営に継承・活用

地方創生・まちづくり

- 東京大会による地域住民等のスポーツへの関心の高まりを地方創生・まちづくりの取組に活かし、将来にわたって継続・定着
- 国立競技場等スポーツ施設における地域のまちづくりと調和した取組を推進

スポーツに関わる者の心身の安全・安心確保

- 東京大会でも課題となったアスリート等の心身の安全・安心を脅かす事態に対応するため、
 - ・誹謗中傷や性的ハラスメントの防止
 - ・熱中症対策の徹底など安全・安心の確保
 - ・暴力根絶に向けた相談窓口の一層の周知・活用

2. スポーツの価値を高めるための第3期計画の新たな「3つの視点」を支える施策

スポーツを「つくる／はぐくむ」

社会の変化や状況に応じて、既存の仕組みにとらわれずに柔軟に見直し、最適な手法・ルールを考えて作り出す。

- ◆ 柔軟・適切な手法や仕組みの導入等を通じた、多様な主体が参加できるスポーツの機会創出
- ◆ スポーツに取り組む者の自主性・自律性を促す指導ができる質の高いスポーツ指導者の育成
- ◆ デジタル技術を活用した新たなスポーツ機会や、新たなビジネスモデルの創出などDXを推進

スポーツで「あつまり、ともに、つながる」

様々な立場・背景・特性を有した人・組織があつまり、ともに課題に対応し、つながりを感じてスポーツを行う。

- ◆ 施設・設備整備、プログラム提供、啓発活動により誰もが一緒にスポーツの価値を享受できる、スポーツを通じた共生社会の実現
- ◆ スポーツ団体のガバナンス・経営力強化、関係団体等の連携・協力による我が国のスポーツ体制の強化
- ◆ スポーツ分野の国際協力や魅力の発信

スポーツに「誰もがアクセスできる」

性別や年齢、障害、経済・地域事情等の違い等によって、スポーツの取組に差が生じない社会を実現し、機運を醸成。

- ◆ 住民誰もが気軽にスポーツに親しめる「場づくり」等の機会の提供
- ◆ 居住地域にかかわらず、全国のアスリートがスポーツ医・科学等の支援を受けられるよう地域間連携の連携強化
- ◆ 本人が望まない理由でスポーツを途中で諦めることがない継続的なアクセスの確保

本計画との関わりの深い施策

【参考2】第3次長野県スポーツ推進計画（長野県ホームページより）

これまでの取組をベースとしつつ、社会状況の変化等により生じた課題に対応し、「信州やまなみ国スポ・全障スポ」の開催及びその後のスポーツ振興も見据えた新たな計画

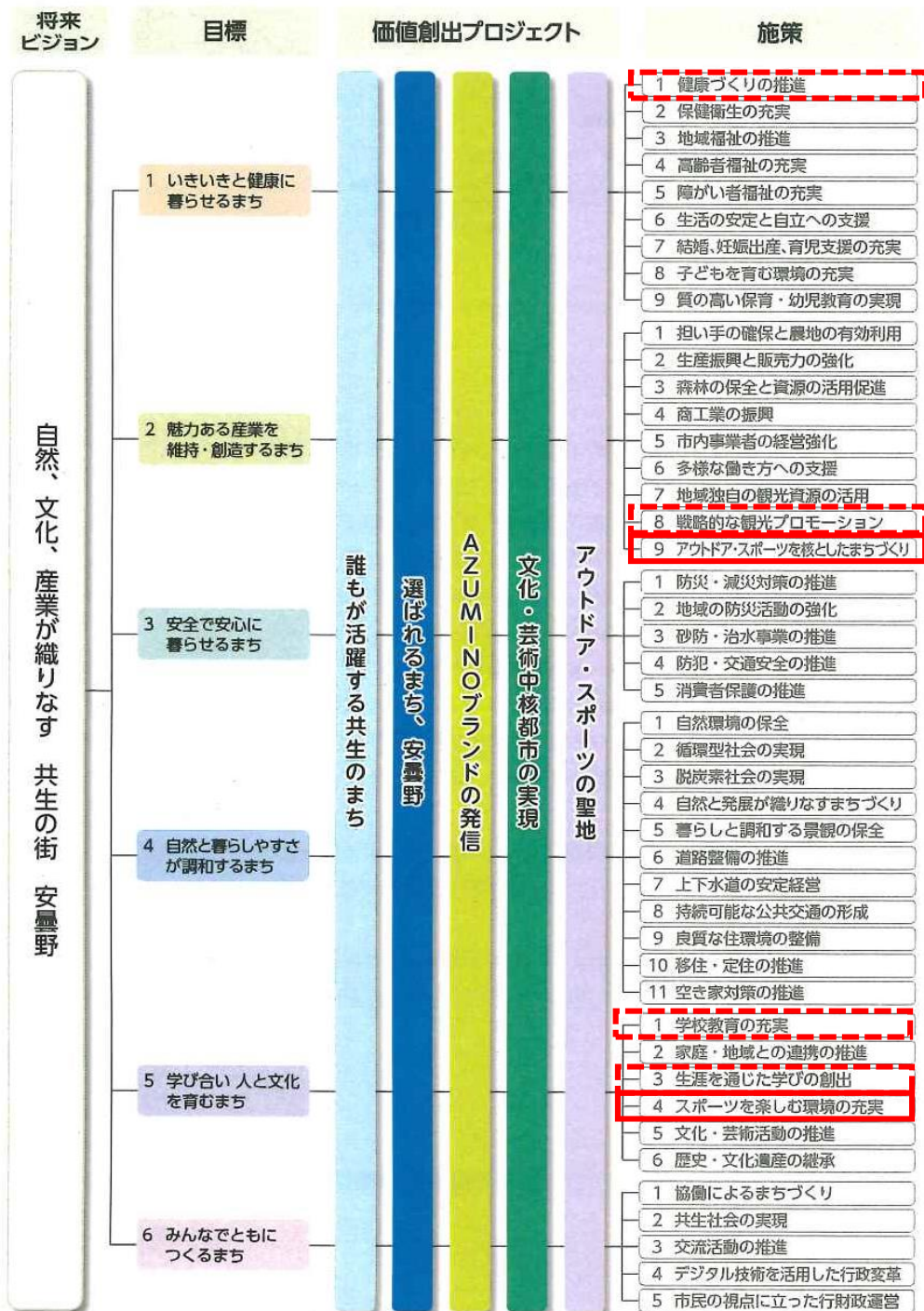
第3次長野県スポーツ推進計画（R5年度～R9年度）	
基本目標	主な施策の展開
1 子どもの運動・スポーツ機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 幼児期からの運動遊びの推進 ● 効果的なICTの活用による個別最適な体育・保健体育授業の推進 ● 学校部活動の地域クラブ活動への移行に向けて、地域を拠点としたスポーツ環境づくり及び指導者の確保や質の向上を図るための取組の支援 ● 障がいのある子どもの運動機会の充実、理解の促進
2 生涯を通じたスポーツ機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ● 「する」「みる」「ささげる」スポーツ参画人口の拡大と定着化 ● スポーツ推進委員、総合型地域スポーツクラブなど地域のスポーツクラブとの連携強化 ● 誰もが身近で安全に利用しやすいスポーツ施設の充実・維持管理 ● スポーツを通じた共生社会づくりの促進
3 全国や世界で活躍する選手の育成	<ul style="list-style-type: none"> ● 2028年の信州やまなみ国スポでの天皇杯・皇后杯獲得に向けた競技力向上対策 ● 先端技術を活用した競技力向上対策 ● 県内どこでも医科学的なサポートを受けられる「長野県スポーツ医科学ネットワーク」の構築 ● アスリート等の県内就職を支援する「長野県アスリート就職支援事業」の強化
4 スポーツの持つ力の多面的活用	<ul style="list-style-type: none"> ● 県スポーツコミッションによる大会やスポーツ合宿の誘致促進による地域経済の活性化 ● 山岳スポーツやウィンタースポーツなど、本県ならではのスポーツの魅力発信 ● 県内のプロスポーツチームと連携した青少年の健全育成や観光振興 ● 運動・スポーツを通じた健康づくりの推進

本計画との関わりの深い施策

(3) 安曇野市第2次総合計画 後期基本計画 (令和4年度策定)

- 令和5年度から令和9年度までを対象期間として設定。
- 前期計画策定以降の様々な社会の変化を踏まえ、将来ビジョンを「自然、文化、産業が織りなす 共生の街 安曇野」に設定。
- 価値創出プロジェクトを設定しアウトドア・スポーツの楽しめる豊かな環境等多くの魅力を高め、市内外の方に価値として認識してもらうための取組みを重点化。

【参考3】安曇野市 第2次総合計画 後期基本計画 施策の体系図



 本計画との関わりの深い施策
 左記に準じて関連する施策

第3章

計画の目指すところ・目標

1. 将来像

笑顔あふれ活力みなぎる 健康スポーツ都市 安曇野

スポーツは人間が生命を維持するうえで欠かせない身体活動のひとつであり、スポーツをすることで健康維持、精神育成等様々な面で効果を得ることができます。また、スポーツは、市民一人ひとりの適性や関心に応じて取り組むことができ、一部の人々に限られることのない「みんなのもの」でもあります。スポーツを「する」ことでみんなが「楽しさ」「喜び」を得ること、これはスポーツの価値の原点です。

安曇野市では、スポーツを「する」「みる」ことから生まれる「楽しさ」「喜び」を大事にし、みんなの笑顔や元気を生み出し、健康な暮らしを送りながら、スポーツを通じた様々な交流を促進し、そこで育まれる活力をさらに大きくすることが重要と考えます。また、こうした交流促進や活力創出を「ささえる」体制やしくみづくり、施設の整備等の取組みをさらに進めることが必要です。

以上のような思いをこめて、これから10年で目指すスポーツ推進の将来像を「笑顔あふれ活力みなぎる 健康スポーツ都市 安曇野」と定めます。

2. 基本目標

基本目標1 市民の多様なライフスタイルに応じたスポーツ参加の促進

情報化社会の急速な発展に伴う市民の嗜好や生活様式（ライフスタイル）も多様化しています。一方で、高齢化も進み、市民の健康への意識は高まっています。

スポーツへの関わり方も世代やライフスタイルに応じて様々です。競技スポーツで心身を鍛える若い世代から親子で楽しむ子育て世代、健康の持続に意識の高い熟年世代、介護予防に関心を持つ高齢世代…。この多様さを受け入れることのできる環境や条件を整えることが大切です。

より多くの市民がそれぞれの考えに沿ったスポーツとの関わりを持てる機会や場づくりに努め、「する」スポーツの継続と新たな参加を促し、笑顔があふれ、心身ともに健康な暮らしにつなげていくことを目指します。

基本目標2 「する」スポーツを「ささえる」体制・しくみの充実

急速な高齢化、個々の意識の多様化の進行とともに、スポーツを伝え、受け継いでいくしくみにも変化がみられます。指導者の後継者不足、子どもの減少に伴う部活動や育成のしくみの衰退などが進み、市民がスポーツをする、あるいはスポーツへの参加促進を図るための基盤が揺らぎつつあります。

変化の激しい時代に適応しながら、市民のスポーツ参加を多様なスタイルで促すため、スポーツ指導者やスポーツをする人を支えている様々な人材が意欲的に継続して関与し、仲間を増やすことのできるような環境を整えることを目指します。

「する」スポーツを「ささえる」体制としくみを、より時代にあったものへと改めていくことに取り組みます。

基本目標3 安曇野の魅力を活かしたスポーツによる絆・交流・活力の創出

スポーツは健康づくりにつながるなどの参加する人だけが恩恵を受けるわけではありません。競技を通じた競技者同士の関わり、高いレベルの競技会の観戦やイベントの開催を通じた様々な人同士の交流や絆も生み出します。

安曇野市には、豊かな水環境、美しい景観、温泉など外部に広くアピールできる良好環境があり、この環境を活かしたスポーツイベントや交流は、国内でみてもここならではのものになり得る可能性を秘めています。

この可能性を高めるべく、市民一人ひとりへの効果だけでなく、地域の活力創造などにつながるスポーツ交流やイベントなど「みる」「ささえる」の取り組みも進めます。

第4章

実現のための施策

3つの基本目標に沿って、その実現に必要な基本的な施策を整理し、体系図としてとりまとめました。

基本目標

基本施策

基本目標1 市民の多様なライフ スタイルに応じた スポーツ参加の促進



- ①子どものスポーツの推進
- ②「気軽さ」で初心者参加を促すスポーツ推進
- ③ライフステージとニーズに応える「スポーツの場」づくり
- ④効果的なスポーツ情報サービス
- ⑤公共スポーツ施設の快適性・利便性の改善

基本目標2 「する」スポーツを 「ささえる」 体制・しくみの充実



- ⑥地域でささえるスポーツ推進体制の基盤づくり
- ⑦健康増進に関わる多様な主体の連携強化
- ⑧総合型地域スポーツクラブの運営支援と新たな体制の具体化

基本目標3 安曇野の魅力を活か したスポーツによる 絆・交流・活力の創出



- ⑨障がい者スポーツを広める場と体制づくり
- ⑩アウトドア・スポーツを核としたまちづくり
- ⑪「する」「みる」「ささえる」スポーツを通じた多様な交流の拡大

次のページ以降に、基本施策ごとに市民のスポーツとの関わりと、前期計画期間における市の取り組みにおける現状と課題を踏まえながら、今後の施策の展開を示します。

基本目標1 市民の多様なライフスタイルに応じたスポーツ参加の促進

安曇野での暮らしのスタイルと世代の違いにふさわしいスポーツ参加促進のための機会と場を生み出すことに重点を置きます。

基本施策① 子どものスポーツの推進

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・安曇野市では、平成30年度まで中学生女子の体力が全国平均に比べ低く、運動が好きと回答する生徒が少ない傾向にありましたが、令和4年度では全国平均を上回る傾向がみられます。（巻末資料A-2参照）。子どもたちの体力の維持・向上の根底にはスポーツを「好き」と感じることが重要である傾向が見出されます。
- ・この傾向から、幼少の頃から親子でスポーツに親しむ場面を生み出すことや、達成感や成功を感じることでできる体験を積み重ねる機会の拡充が重要です。

○前期計画期間の取り組みの状況

- ・安曇野市では、平衡感覚や運動神経が発達する幼少期からの基礎体力向上に向け、コーディネーショントレーニングの拡充に力を入れ、市内19の認定こども園に指導者を派遣し、定着を図っています。また指導者のさらなる確保のため保育士向けにオンライン講座を行い、指導者への周知、育成に努めています。
- ・子どもたちの運動への抵抗感を緩和するうえでも、このトレーニングを小学生の低学年（運動神経が完成する10歳程度）まで継続できる運営体制を構築する必要があることから、小学校への指導員訪問や教職員向けの研修を行っています。
- ・松本山雅親子ふれあい教室や、親子参加のスポーツ体験の機会をニーズに合わせて開催しています。
- ・安曇野市のスポーツ少年団の参加人数、参加団体は少子化の影響もあり減少傾向にありますが県下で団数は1位、団員数は2位で活発な活動が展開されています。今後もこの状況を維持するべく、子どもたちの体力づくりやスポーツへの興味、関心を高める取り組みの継続が重要です。

表1 コーディネーショントレーニング(COT)普及等に関する講座等の実施概要(H30年度～R4年度)

対象	実施状況
こども園対象	H30年度 18園109回(延べ6,551人参加) R1年度 19園100回(延べ5,771人参加) R2年度 20園20回(延べ936人参加) R3年度 10園38回(延べ2,160人参加) R4年度 19園79回(延べ3,986人参加)
小中学校	指導員訪問 小学校10校(11学年61学級) 中学校(1学級、11部活動、2合同部活動(2校で実施)、1生徒会) 教職員研修会 6団体から要請

※ コーディネーショントレーニング

子どもたちのなかには、バランスをとるのがうまい子や、リズムに合わせてからだを動かすことが得意な子がいます。このような子どもたちの動きに隠されているのが「コーディネーション能力（状況を目や耳などの五感で察知し、それを頭で判断し、具体的に筋肉を動かすといった一連の過程をスムーズに行う能力）」であり、この能力を高めるための、科学的に裏付けられた、楽しんで取り組むことのできるトレーニング方法

【 施策の展開 】

目標指標	運動好きの割合(%)	小学5年生平均 65.2%→70.0%
		中学2年生平均 57.0%→60.0%

◇コーディネーショントレーニングのさらなる推進

- ・参加者の声を生かし、さらに内容を充実させていきます。 ※全国体力・運動能力、運動習慣等調査
- ・市内認定こども園、小中学校での活動をより充実させるとともに保育士、教職員が自ら指導できるための指導者向けの研修会を行います。

◇スポーツ少年団活動への支援

- ・安曇野市スポーツ協会との連携を図り、子どものスポーツ活動の機会を充実させるとともに子どもたちの「スポーツ」に対する好奇心、熱意をはぐくめるよう支援します。またスポーツを通じた交流、地域づくりに貢献できるよう支援します。

◇親子参加のスポーツ体験企画の充実

- ・これまでに開催した親子で参加するスポーツ教室等のアンケート結果や、ニーズを参考に、スポーツを「楽しい」と感じることでできる教室運営に努めます。
- ・スポーツ協会等とも連携して親子で参加できるスポーツの機会を増やします。

◇「生涯の健康づくり」の意識を取り入れた学習の機会の提供

- ・子ども達の運動能力の変動に注視するとともに、日常生活の中で簡単に取り組めるスポーツを紹介していきます。

安曇野市スポーツ少年団

「一人でも多くの青少年にスポーツの喜びを！」「スポーツを通じて青少年のからだところを育てる組織を地域社会のなかに！」と願い、「安曇野市スポーツ少年団」は平成19年に発足。令和4年度現在、62団体1,487人の団員たちが活動しています。

表2 安曇野市スポーツ少年団登録団体一覧

団体名	登録単位団体名 R5.2現在
柔 道	●安曇野市柔道クラブ
剣 道	●豊科剣道 ●穂高剣道 ●堀金少年剣道クラブ ●三郷少年剣道クラブ ●明科剣道 ●夢 未来「対山館」AZUMINO
ミニバスケット	●豊科ミニバスケット ●穂高ミニバスケットボールクラブ ●安曇野三郷ミニバスケット ●安曇野堀金ミニバスケット ●明科ミニバスケットボール
空 手	●豊科空手道 ●穂高空手道 ●三郷少年空手クラブ ●公和館三郷文化 ●明科空手 ●真武館
サッカー	●アルフト安曇野 ●FC AZUL ●三郷サッカー ●穂高サッカースクール ●堀金サッカー ●明科サッカー中学 ●明科サッカー ●安曇野グリーンヒル
卓 球	●豊科卓球 ●穂高卓球研究会 ●堀金少年卓球クラブ
バドミントン	●豊科ジュニアバドミントン ●穂高バドミントン ●明科バドミントン ●安曇野シニアバドミントン
硬式野球	●安曇野南リトルシニアリーグ ●安曇野穂高少年硬式野球連盟 ●豊科少年硬式野球協会 ●堀金三郷少年硬式野球協会
軟式野球	●軟式野球学童安曇野ドジャース ●豊科野球クラブ ●明科少年野球クラブ ●明科野球クラブ
合 気 道	●あづみ野少年合気道クラブ ●穂高合気道
乗 馬	●安曇野市乗馬
ソフトテニス	●豊科ソフトテニス ●ソフトテニスあづみ野クラブ
バレーボール	●豊科ジュニアバレーボールクラブ ●穂高キッズバレーボールクラブ ●少年バレーボール三郷クラブ ●安曇野JVC ●三郷SVB ●安曇野ジュニアバレーボール教室 ●VC安曇野Wish
ラグビー	●安曇野ラグビースクール ●三郷ラグビースクール
エアロビクス・ダンス	●穂高ジュニアビクスサークル ●ひまわりダンスチーム
体操・新体操	●穂高わくわくKID'S ●三郷新体操 ●IRIS安曇野R.G
野外活動・多項目	●楽動隊

基本施策② 「気軽さ」で初心者参加を促すスポーツ推進

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・安曇野市民のスポーツ実施率は、平成28年度の調査では7年前の調査に比べ約6%増加（巻末資料B-1参照）しましたが、全国平均には10%ほど及びません。実施率を高めるには、新たにスポーツの機会への参加を促すしかけが必要です。
- ・新たにスポーツを始めることを促す主要なターゲットは、健康づくりへの意識が高く、相応に時間のある「高齢者」と、将来の安曇野市を担う「子どもたち」であると考えられます。
- ・このような人々に対して参加を促すことのできるスポーツとしては、競技人口が少なく、誰もが気軽に参加しやすく、体を動かすことから始める体操などの種目が挙げられます。
- ・市民アンケート調査の結果から、今後の参加希望率の最も高い種目はウォーキングです。歩くことは健康づくりにも効果があり、歩くきっかけを提供する取り組みは今後さらに重要になります。

○前期計画期間の取り組みの状況

- ・マウンテンバイクコースの完成にともない、安曇野市では親子マウンテンバイク教室を開催しました。また、身体の衰えをカバーする、日常生活の動作に取り入れる運動といった高齢者の方が関心を持ちやすい内容の講座（姿勢改善エクササイズ教室教室等）を開催しました。
- ・これらの種目は、初めてスポーツに取り組もうとする人の動機付けとして今後重要になると考えられますが、コロナ禍の影響もあり、感染症の蔓延にも留意した講座運営も必要となっています。

表3 初心者向けの講座等に関する実施概要(H30年度～R4年度)

講座名	開催状況
ニュースポーツ教室	H30年度開催(全5回)
障がい者スポーツ教室	R4年度開催(全6回)
ポッチャ講習会	R1年度(3回)、R4年度開催(1回)
スポーツ教室	H30年度～R4年度 開催 (10～25教室/年)

【施策の展開】

目標指標 スポーツ教室・体験会[※]の参加者数 154 → 200 (人/年)

(※スポーツ推進課主催分)

◇気軽にスポーツ体験ができる機会の充実

- ・スポーツ体験会の企画、運営だけでなく、他部署イベント開催時にブース等を設けより気軽に体験できる機会を増やします。
- ・用具の購入については、初心者向けにこだわらず、多様な方々が気軽に楽しめるスポーツを研究し、購入していきます。
- ・安曇野市スポーツ協会、安曇野市スポーツ少年団等と連携を図りながら、多くの市民が気軽に体験できる機会を設けます。

基本施策③ ライフステージとニーズに応える「スポーツの場」づくり

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- 平成28年度実施の市民アンケート調査の結果から、今後力を入れるべき取り組みとして「幼児から高齢者まで各年齢層にあったスポーツ活動の機会を増やす」、「身近に利用できるスポーツ施設を増やす」という回答が上位を占めています。
- 市内では、20代後半、30～50代のスポーツ実施率が低く、この世代の参加促進が重要です。

表4 安曇野市のスポーツ推進に必要な取り組み

順位	選択肢詳細	H28比率%	H21比率%
1	幼児から高齢者まで各年齢層にあったスポーツ活動の機会を増やす	11.8	11.2
2	身近に利用できるスポーツ施設を増やす	10.0	8.4
3	高齢者の健康と交流の場づくりを増やす	7.0	9.7
4	スポーツやイベントや指導者、施設などスポーツに関する各種情報の提供を充実する	6.8	8.3
5	優れたスポーツ指導者が増える	6.1	4.1
6	健康や体力づくりの相談体制を充実する	6.0	7.7
7	総合型地域スポーツクラブの活動を盛んにする	5.2	5.9
8	子どもたちの体力が向上する	5.1	4.8
9	各種スポーツ施設が簡単に予約できる	4.7	5.6
10	学校における運動部活動を活発にする	4.5	4.2

(H28年度市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査結果より)

- 一方でスポーツ実施の目的は世代によって違いも大きいため、様々なニーズに応じて「スポーツの場」を企画する必要があります。
- また、初心者の参加意欲に限らず、競技者のモチベーションの維持、向上にもつながる支援も必要です。

○前期計画期間の取り組みの状況

- 成人向けの講習の企画運営を継続、拡充の取組みとして、託児付きの教室を実施しています。平成30年度、令和元年度とも年間約200名の参加がありました。その後コロナ禍で一時中断しています。
- 平成28年度に市内で開催されたスポーツイベントや教室、講習への参加者実績は35,418人であり、7年前に比べ大幅に増えました。しかし、その後のコロナ禍で参加者数、開催の機会も制限され、令和4年度は4,579人程度にとどまっています。アフターコロナを見据えた運営の対策やスタッフの確保や体制の再構築も必要になると考えられます。

【施策の展開】

目標指標

20～40代のスポーツ教室等参加率	17.5%→40.0%
親子で参加するスポーツ教室の参加者	1,046→1,200(人/年)

◇成人のスポーツ参加を促す教室や講座の開催・拡充

- 幼児がいる保護者やあらゆる世代で参加できるスポーツ教室開催に向け、託児や内容、時間等について引き続き工夫を加え、魅力あるスポーツ教室等を開催します。

◇大会参加への支援

- スポーツへの熱意や技術の向上のためにも継続して激励金の支援を行います。

◇市民のスポーツ参加への関心を高めるしかけづくり

- スポーツ施設の利用や教室等への参加を促すしくみづくりを官民連携で検討します。

基本施策④ 効果的なスポーツ情報サービス

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- 平成28年度実施の市民アンケート調査の結果から、今後力を入れるべき取り組みへの回答として「スポーツやイベント、指導者等の情報提供」が6.8%で上位4番目に、「各種スポーツ施設が簡単に予約できる」が4.7%で9番目に位置します（巻末資料B-2参照）。
- これらを合計すると11.5%となり、最上位の「年齢層にあったスポーツ活動の機会を増やす」と同等の水準であり、情報発信の充実に対するニーズが高い傾向にあることがわかります。
- 市民がスポーツに関する情報を入手する際の手段としては広報誌、回覧板等が上位を占めています。一方で、世代による違いもあるため、多様な手法での情報発信も必要です。
- また、人口の社会増が多い安曇野市では、スポーツに新たに参加する人や新たに住んだ人などが苦勞なく情報を入手できるしくみを充実させる必要があります。

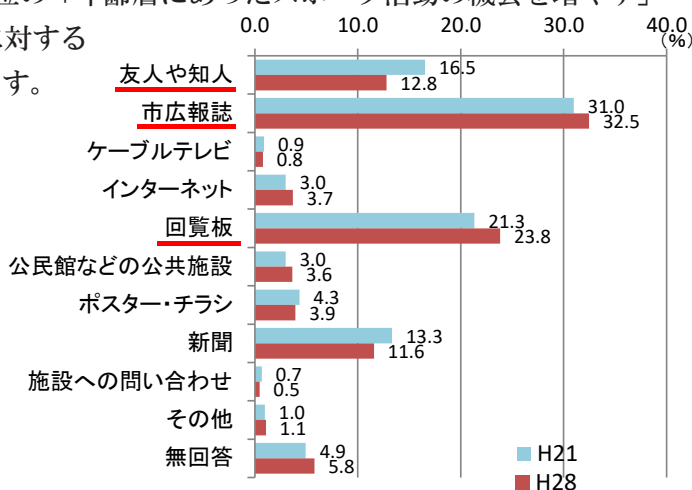


図9 スポーツに関する市民の情報源

(H28年度市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査結果より)

○前期計画期間の取り組みの状況

- 市主催のスポーツ教室やイベントについては、市の広報誌等を中心に、情報発信を展開しており、令和2年度には62回実施し、目標指標の水準まで到達しました。
- 安曇野市総合体育館（令和4年開業）では指定管理者と安曇野市スポーツ協会の連携による情報発信、マウンテンバイクコース(令和4年開業)等の運営ではSNS等を用いたタイムリーな情報発信を進めています。

【施策の展開】

目標指標

広報誌、ホームページ、X(旧ツイッター)等での情報発信回数

45→60 (回/年)

◇市民ニーズに適合したスポーツ情報のさらなる発信

- スポーツ教室やイベント、体育施設等に関して、多くの方に興味や関心を持ってもらえるように、ホームページやX(旧ツイッター)を活用しながら継続して情報を発信します。

◇官民連携での発信の検討

- 市ホームページから各団体(スポーツ協会、指定管理者等)が運営するサイトへ接続できるよう設定し、各施設や団体等の活動や運営状況を情報を発信します。

基本施策⑤ 公共スポーツ施設の快適性・利便性の改善

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・平成28年度実施の市民アンケート調査では、施設の寒さ対策の充実、観客の応援場所の充実、備品の老朽化や劣化対策等、施設の快適性、利便性の改善を求める声が多くあります。
- ・施設の利用者数は令和4年度の実績で643,481人であり、今後の利用促進に向け、施設の改善を継続的に進め、満足度の向上につなげていく必要があります。

○前期計画期間の取り組みの状況

- ・公共スポーツ施設に関しては、平成30年度以降、次のような改修・整備等を進めてきました。
 - ①耐震等を含む大規模改修：三郷文化公園体育館の大規模改修、堀金体育館の改修
 - ②公式スポーツ施設整備計画に沿った豊科南部総合公園における安曇野市総合体育館の整備
 - ③公共施設長寿命化計画の策定
 - ④自転車を活かしたまちづくりの一環としてのマウンテンバイクコース等の整備
- ・総合体育館整備に伴う豊科南社会体育館や豊科武道館剣道場の廃止（安曇野市公共施設再配置計画に基づく）のほか、老朽化に伴う大規模改修を行った場合その効果が見出せない施設の廃止の検討などを進めながら、人口減少と今後の財政負担を考慮した施設の統廃合について、より明確な計画を定めていくことが必要です。

【施策の展開】

目標指標

施設利用者アンケートによる満足度 63.8% (H28調査) →70.0%
「スポーツを楽しめる環境が整っている」と思う市民の割合(%)
36.2% →40.0%

◇既存施設の部分改修による快適性・利便性の向上

- ・令和4年3月に策定した公共施設長寿命化計画に基づき、計画的に改修工事を進めます。なお、トイレの洋式化、照明のLED化、備品の購入についても、新たに計画を進め、順次改修工事を進めていきます。
- ・改修等に当たっては、利用者の安全確保、快適性の向上に努めるとともに、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、多様な人々がスポーツに親しめるよう、スポーツ施設のユニバーサルデザインに配慮した改善を計画的に進めます。
- ・耐震化工事に伴う大規模改修を計画的に進めます。
豊科勤労者総合スポーツ施設体育館及び三郷体育館（R5） 豊科武道館柔道場（R7）
- ・老朽化に伴う解体工事を実施します。
豊科武道館剣道場（R6）

◇市内体育施設の新設・統廃合等の将来計画の具体化

- ・公式スポーツ施設整備計画（H27）の見直しを図るため、既存施設の状況把握及びアンケート調査を行い、将来の計画に向け、具体化していきます。

基本目標2 「する」スポーツを「ささえる」体制・しくみの充実

少子化が進むなか、競技スポーツの将来の担い手が育ちにくい現状や、優れたスポーツ指導者を求める市民の声を踏まえ、次世代の担い手を育てていく指導者やスポーツ推進に関わる市民のモチベーションを持続できるしくみづくりに重点をおきます。

基本施策⑥ 地域でささえるスポーツ推進体制の基盤づくり

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

①指導者の確保と育成

- ・平成28年度実施の市民アンケート調査の結果から、今後市が力を入れるべき取り組みのなかで、平成21年度調査と比べて最も回答者の比率が伸びた選択肢は「優れたスポーツ指導者が増える」でした（巻末資料B-2参照）。
- ・指導できる人がいない状態ではスポーツの継続が難しくなります。指導できる機会もつくることとあわせて、指導者の育成を図る必要があります。
- ・市内で進む人口の高齢化の影響は顕著で、指導者、推進体制の高齢化のほか、指導者のなり手不足の問題が発生しつつあります。

②指導者相互の交流

- ・指導的立場・スポーツ組織のマネジメントに関わる人が相互につながりをつくり、日々の課題の解決の糸口をみつけたり、相互の刺激を得ることは、「支える人」の苦労を減らしたり、モチベーションの維持につなげるうえで重要です。
- ・関係者の所在や得意分野などの基礎的な情報も不足しており、スポーツ指導者のヨコの連携を強化する必要があります。

③次世代への継承

- ・指導者の存在の有無のほか、少子化や競技種目への関心の変化も影響し、中学校で運営可能な部活動（競技種目）が限定される状況が続いており、運動部への入部者数の割合も減少傾向にあります。
- ・教員の日常業務の増加に伴い、教員だけでは部活動を支えられない状況が顕在化しており、地域で部活動を支えていくような意識改革としくみづくりが必要である。

○前期計画期間の取り組みの状況

①指導者の確保と育成

- ・スポーツ指導者研修会を平成30年度～令和2、令和4年度に各1回開催しています。指導者の資質向上に向け、継続するとともに、人材も確保していく必要があります。
- ・指導者を確保するうえでも、第三者に対して指導能力があることを示す「指導者資格」の保有が重要です。指導的立場にいる人達からは、その資格の新規取得や更新への負担が大きいという声がきかれます。

②指導者相互の交流

- ・人材の確保が難しい現状において、総合型地域スポーツクラブが、地域スポーツ振興の中心的な立場として活躍されることが期待されます。また、既存の組織で機能の低下した組織があれば改善も必要と考えられます。
- ・スポーツや健康に関わる有資格者やスポーツ指導者の生涯学習リーダーバンクへの登録を進め、『安曇野市生涯学習情報「Link」』にも掲載しました。

③次世代への継承

- ・堀金地域に設立されている総合型地域スポーツクラブ「スポネット常念」では、部活動のない分野の競技を補う形で子どもたちのスポーツニーズに応えています。
- ・スポーツ推進委員の会議を開催し、各地区におけるスポーツイベント、講座等の指導、運営を行っています。
- ・こうした地域の組織との連携などを通じて、新たな指導者を確保する方法や確保できた場合の役割と責任の分担や、指導者が指導を継続できる環境づくりを、長野県、国などの取り組みとも連携・調整しながら進める必要があります。

【 施策の展開 】

目標指標

スポーツ指導者講習会等の開催数	1→3(回/年)
スポーツ指導者連絡協議会(仮称)の設立	0→1(組織)

◇スポーツ指導者研修会の拡充

- ・過去の開催内容や社会情勢などを踏まえ、研修会、講習会の内容を検討しながら、更なる指導者の資質向上に努めます。

◇指導者に関する情報の整理

- ・生涯学習リーダーバンクや『安曇野市生涯学習情報「Link」』を活用します。

◇部活動指導員制度への対応

- ・令和4年度より堀金地域において、休日の部活動を地域住民らが指導する「部活動の地域移行」が始まりました。今後は、移行可能な部活及び地域を拡げていけるよう支援を行います。また、指導者の育成、確保についても支援していきます。

◇スポーツ指導者連絡協議会の設立・支援

- ・指導者間の連携、資質向上のため、スポーツ指導者連絡協議会(仮称)を設立に向け、検討します。

◇指導者・ボランティアの育成支援

- ・障がい者スポーツ指導者、ボランティアの養成については、それぞれ管轄する部局との連携を図り、情報を提供します。

◇既存のスポーツ推進体制の改善

- ・各地区でのスポーツ推進委員によるスポーツ推進活動を継続し、必要に応じて推進委員会の再編・構築に向けた協議を行います。

◇資格取得の支援

- ・公的指導者資格取得、更新等の情報収集および、制度確立に向け、検討します。
(参考：長野県第3次スポーツ推進計画ではやまなみ国体に向け公認指導者資格取得の支援等のレベルアップ措置を計画に位置付けている)

基本施策⑦ 健康増進に関わる多様な主体の連携強化

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・特定健診、後期高齢者健診の質問票結果から、「日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施する市民の割合」、「運動習慣者の割合」は勤労世代に比べ高齢世代で男女とも高くなっています。（巻末資料B-3参照）。

○前期計画期間の取り組みの状況

- ・こうした動きを受け、ライフステージに沿った各種健康推進についての教室、講座等を展開しています。年一回、市民向けに体力測定会を実施し、自身の体力について、認識をする機会を設けています。
- ・市内では83名の健康づくり推進員がおり、研修会などで身に着けたことを活かし地区で健康に関する講座を開催するなど、学んだことを各地区へ広める活動に取り組んでいます。
- ・健康づくりへのニーズは今後も高まると考えられますが、これに対応する行政機関や民間の組織が相互に連携する体制が十分に整っているとはいえません。健康長寿のまちづくりの視点にたった効果的な連携を戦略的に進める必要があります。

表5 健康づくりに関する取り組みの実施概要(H30年度～R4年度)

施策区分	事業内容
スポーツによる健康・体力づくりに向けた意識啓発	骨盤引き締めスリムアップ教室
	エクササイズ教室
	姿勢改善エクササイズ教室
	スロトレ体カアップ教室
	有酸素運動でスリムアップ教室
	ズンバ教室
	ボディーシェイプアップ教室
	ヨガ教室
	インナーマッスル教室
	ピラティス教室
	インターバル速歩体験会
	インターバル速歩講座
	ノルディックウォーク教室
	ポールウォーキング教室
	サイクリング教室
	健康・体力づくりの推進
エンジョイシニア!実践おたっしや塾	
介護予防教室(太極拳等)	
シニア健康太極拳教室	
介護予防講習会「古武術を用いた身体の動かし方」 「取り組もう!今日からロコモ予防」	
楽々太極拳教室(老人クラブ太極拳教室)	
足腰らくらく体操教室	
健康体操教室	
目指せ脳の若返り!脳カアップ教室 <コグニサイズを用いたエクササイズ>	

【施策の展開】

目標指標

健康づくりに関する庁内連絡会議（仮称）の開催 0→3（回/年）

◇ライフステージに沿った情報発信

- ・市民の興味、関心事を調査し、また社会情勢を鑑みながら、関係機関と連携し、タイムリーな情報提供を図ります。
- ・事業の展開とともに、庁内の関係部署との協力体制構築を図ります。

【参考4】健康づくりのための身体活動基準 —健康日本21に基づいた基準—

健康増進法に基づき、厚生労働省では運動も含めた「健康づくりのための身体活動の量や内容についての望ましい基準」を医学的知見も蓄積しながらつくりあげ、2013年にとりまとめています。運動以外の活動も「量」として示しているため、日常的にも利活用が可能な内容となっています。

健康づくりのための身体活動基準2013(概要)

ライフステージに応じた健康づくりのための身体活動(生活活動・運動)を推進することで健康日本21(第二次)の推進に資するよう、「健康づくりのための運動基準2006」を改定し、「健康づくりのための身体活動基準2013」を策定した。

健康づくりのための身体活動基準2013

- 身体活動(=生活活動*1 + 運動*2)全体に着目することの重要性から、「運動基準」から「身体活動基準」に名称を改めた。
- 身体活動量の増加でリスクを低減できるものとして、従来の糖尿病・循環器疾患等に加え、がんやロコモティブシンドローム・認知症が含まれることを明確化(システマティックレビューの対象疾患に追加)した。
- こどもから高齢者までの基準を検討し、科学的根拠のあるものについて基準を設定した。
- 保健指導で運動指導を安全に推進するために具体的な判断・対応の手順を示した。
- 身体活動を推進するための社会環境整備を重視し、まちづくりや職場づくりにおける保健事業の活用例を紹介した。

血糖・血圧・脂質に関する状況	身体活動(=生活活動+運動)	運動	体力(うち全身持久力)
65歳以上	強度を問わず、身体活動を毎日40分(=10メッツ・時/週)	—	—
18~64歳	3メッツ以上の強度の身体活動を(歩行又はそれと同等以上)毎日60分(=23メッツ・時/週)	3メッツ以上の強度の運動を(息が弾み汗をかく程度)毎週60分(=4メッツ・時/週)	性・年代別に示した強度での運動を約3分継続可
18歳未満	— 【参考】幼児期運動指針「毎日60分以上、楽しく体を動かすことが望ましい」	—	—
血糖・血圧・脂質のいずれかが保健指導レベルの者	医療機関にかかっておらず、「身体活動のリスクに関するスクリーニングシート」でリスクがないことを確認できれば、対象者が運動開始前・実施中に自ら体調確認ができるよう支援した上で、保健指導の一環としての運動指導を積極的に行う。		
リスク重複者又は受診勧奨者	生活習慣病患者が積極的に運動をする際には、安全面での配慮が特に重要になるので、かかりつけの医師に相談する。		

※1 生活活動
日常生活における労働、家事、通勤・通学などの身体活動。

※2 運動
スポーツなど、特に体力の維持・向上を目的として計画的・意図的に実施し、継続性のある身体活動。

○健康づくりのための身体活動指針は、国民向けパンフレット「アクティブガイド」として、自治体等でカスタマイズして配布できるよう作成。

生活活動のメッツ表

メッツ	3メッツ以上の生活活動の例
3.0	普通歩行(平地、67m/分、犬を連れて)、電動アシスト付き自転車に乗る、家財道具の片付け、子どもの世話(立位)、台所の手洗い、大工仕事、梱包、ギター演奏(立位)
3.3	カーペット掃き、フロア掃き、掃除機、電気関係の仕事:配線工事、身体の動きを伴うスポーツ観戦
3.5	歩行(平地、75~85m/分、ほどほどの速さ、散歩など)、楽に自転車に乗る(8.9km/時)、階段を下りる、軽い荷物運び、車の荷物の積み下ろし、荷づくり、モップかけ、床磨き、風呂掃除、庭の草むしり、子どもと遊ぶ(歩く/走る、中強度)、車椅子を押す、釣り(全般)、スクーター(原付)・オートバイの運転
4.0	自転車に乗る(=16km/時未満、通勤)、階段を上る(ゆっくり)、動物と遊ぶ(歩く/走る、中強度)、高齢者や障がい者の介護(身支度、風呂、ベッドの乗り降り)、屋根の雪下ろし
4.3	やや速歩(平地、やや速めに=93m/分)、苗木の植栽、農作業(家畜に餌を与える)
4.5	耕作、家の修繕
5.0	かなり速歩(平地、速く=107m/分)、動物と遊ぶ(歩く/走る、活発に)
5.5	シャベルで土や泥をすく
5.8	子どもと遊ぶ(歩く/走る、活発に)、家具・家財道具の移動・運搬
6.0	スコップで雪かきをする
7.8	農作業(干し草をまとめる、納屋の掃除)
8.0	運搬(重い荷物)
8.3	荷物を上の階へ運ぶ
8.8	階段を上る(速く)

メッツ	3メッツ未満の生活活動の例
1.8	立位(会話、電話、読書)、皿洗い
2.0	ゆっくりした歩行(平地、非常に遅い=53m/分未満、散歩または家の中)、料理や食材の準備(立位、座位)、洗濯、子どもを抱えながら立つ、洗車・ワックスかけ
2.2	子どもと遊ぶ(座位、軽度)
2.3	ガーデニング(コンテナを使用する)、動物の世話、ピアノの演奏
2.5	植物への水やり、子どもの世話、仕立て作業
2.8	ゆっくりした歩行(平地、遅い=53m/分)、子ども・動物と遊ぶ(立位、軽度)

運動のメッツ表

メッツ	3メッツ以上の運動の例
3.0	ボウリング、バレーボール、社交ダンス(ワルツ、サンバ、タンゴ)、ピラティス、太極拳
3.5	自転車エルゴメーター(30~50ワット)、自体重を使った軽い筋力トレーニング(軽・中等度)、体操(家で、軽・中等度)、ゴルフ(手引きカートを使って)、カヌー
3.8	全身を使ったテレビゲーム(スポーツ・ダンス)
4.0	卓球、パワーヨガ、ラジオ体操第1
4.3	やや速歩(平地、やや速めに=93m/分)、ゴルフ(クラブを担いで運ぶ)
4.5	テニス(ダブルス)*、水中歩行(中等度)、ラジオ体操第2
4.8	水泳(ゆっくりとした背泳)
5.0	かなり速歩(平地、速く=107m/分)、野球、ソフトボール、サーフィン、バレエ(モダン、ジャズ)
5.3	水泳(ゆっくりとした平泳ぎ)、スキー、アクアビクス
5.5	バドミントン
6.0	ゆっくりとしたジョギング、ウェイトトレーニング(高強度、パワーリフティング、ボディビル)、バスケットボール、水泳(のんびり泳ぐ)
6.5	山を登る(0~4.1kgの荷物を持って)
6.8	自転車エルゴメーター(90~100ワット)
7.0	ジョギング、サッカー、スキー、スケート、ハンドボール*
7.3	エアロビクス、テニス(シングルス)*、山を登る(約4.5~9.0kgの荷物を持って)
8.0	サイクリング(約20km/時)
8.3	ランニング(134m/分)、水泳(クロール、ふつうの速さ、46m/分未満)、ラゲビー*
9.0	ランニング(139m/分)
9.8	ランニング(161m/分)
10.0	水泳(クロール、速い、69m/分)
10.3	武道・武術(柔道、柔術、空手、キックボクシング、テコンドー)
11.0	ランニング(188m/分)、自転車エルゴメーター(161~200ワット)

メッツ	3メッツ未満の運動の例
2.3	ストレッチング、全身を使ったテレビゲーム(バランス運動、ヨガ)
2.5	ヨガ、ピリヤード
2.8	座って行うラジオ体操

【出典】厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)「健康づくりのための運動基準2006改定のためのシステマティックレビュー」(研究代表者:宮地元彦)

【出典】厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)「健康づくりのための運動基準2006改定のためのシステマティックレビュー」(研究代表者:宮地元彦)

*試合の場合

(厚生労働省ホームページより)

基本施策⑧ 総合型地域スポーツクラブの運営支援と新たな体制の具体化

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・総合型地域スポーツクラブ自体の認知度は市民の間でも低い状況にあり、認知度を上げるような取り組みが今まで以上に必要となります。

○前期計画期間の取り組みの状況

- ・現在、総合型地域スポーツクラブは堀金地域に1つ（スポネット常念）組織されています。市では、同団体とスポーツ事業業務委託契約を結び、「ファミリースポーツカフェ」と称し、市民の運動能力の向上、また多種にわたるスポーツの体験、交流機会を提供する事業を展開しています。
- ・総合型地域スポーツクラブ（スポネット常念）が中学校部活動から地域スポーツクラブへ移行するにあたっての主体組織となっています。
- ・地理的な特徴を考慮すると、他地域での設立も望ましいと考えられますが、設立の準備に必要な要件（団体数、人数など）や準備の負担が大きく、新規設立が容易でない状況にあります。
- ・このような動向と今後の少子高齢化の進展、人口減少などを見据え、今後の安曇野市の地域をあげたスポーツ推進体制を研究し、構築する必要があります。

【施策の展開】

目標指標

総合型地域スポーツクラブ参加者数 636 → 1,000人

◇既存クラブの運営等への支援

- ・既存クラブを有効と連携し、クラブへの参加の輪を広げる手法を協議し展開していきます。
- ・既存クラブがより活発な活動を展開できるように、他地域の情報を積極的に収集するなどの支援を行います。
- ・クラブ運営に関わる人材発掘、育成を既存クラブと協力し、実施していきます。
- ・市民への総合型地域スポーツクラブの認知度を高める広報を含めたプロモーション活動を支援していきます。
- ・中学校部活動の平日の「地域スポーツクラブ」への移行に向けて、地域スポーツのコーディネーター役であるスポーツ推進委員の協力を得ながら、指導者発掘やしきみづくりを総合型地域スポーツクラブとともに支援していきます。

基本目標3 安曇野の魅力を活かしたスポーツによる絆・交流・活力の創出

障がい者スポーツの推進を通じた絆づくりと、安曇野の良好な環境を舞台に広まりつつあるスポーツイベントのしくみや体制を活かし、スポーツを通じた多様な交流の創出に重点を置きます。

基本施策⑨ 障がい者スポーツを広める場と体制づくり

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・全国規模の調査報告では、パラリンピックの認知度は98.2%あるにもかかわらず、パラリンピック以外の障がい者スポーツの直接観戦経験のある人は4.7%という結果(※1)や、障がい者のスポーツ参加率は18.2%という結果(※2)が出ています。
- ・市内での障がい者スポーツに関する教室等の参加や関心の程度は、全国規模の調査結果よりも低い状況にあります。国や県の取り組みとの連携も視野に入れて認知度向上のきっかけづくりが必要です。

○前期計画期間の取り組みの状況

- ・平成30年度には「パラスポーツ体験会」を開催し、令和元年度には「障がい者スポーツ教室」(全6回)、「ボッチャ講習会」(全3回)等連続で開催する講座も実施しました。また、この両年度には「松本、塩尻、安曇野、東筑合同障がい者スポーツ大会」も開催しました。
- ・令和2～3年度はコロナ禍の影響で中止、令和4年度には「ボッチャ講習会」を開催しました。

※1 日本財団パラリンピック研究会「国内外一般社会でのパラリンピックに関する認知と関心」報告書

※2 健常者と障がい者のスポーツ・レクリエーション活動連携推進事業(地域における障がい者のスポーツ・レクリエーション活動に関する調査研究)報告書

【施策の展開】

目標指標

障がい者スポーツ教室・イベントの参加者数	11→60(人)
県障がい者スポーツ大会参加者数	14→25(人)

◇障がい者スポーツの体験機会の充実と連携体制づくりの支援

- ・障がい者スポーツの体験の機会を体験や交流を軸にさらに充実させていきます。また、障がい者スポーツの推進体制の構築に向けた基盤づくりを支援します。

基本施策⑩ アウトドア・スポーツを核としたまちづくり

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・市内では、北アルプス登山やカヌー、ラフティング、スカイスports、トレッキング、キャンプ、釣りなど多種多様なアウトドア・スポーツが楽しめます。市がアウトドア・スポーツを推進するにあたっては、地域の理解や協力、市民がアウトドア・スポーツに親しむ環境づくりが重要になります。
- ・平成27年から開催している信州安曇野ハーフマラソンは、県内外から約6,000人が参加する集客力の高いイベントとなっています。
- ・アウトドア・スポーツに関するイベントの開催にあたり、関連事業者の連携を深めることで、イベントの魅力や宿泊率の向上を図ることが重要です。

○前期計画期間の取り組みの状況

- ・第2次安曇野市総合計画後期基本計画では、安曇野の新たな魅力や価値を創出するとともに、既に存在する数多くの魅力を磨き上げ、市内外の方に価値として認識してもらうため、「価値創出プロジェクト」の一つとして『アウトドア・スポーツの聖地』づくりを目指しています。
- ・信州安曇野ハーフマラソンに代表されるスポーツ交流イベントを継続し、市民、ボランティア等の協力者と参加者の交流を図ります。
- ・令和2年度から令和4年度にかけて、安曇野市の魅力を生かした3つのサイクリングコースを整備し、さらに、令和4年度には堀金地域にマウンテンバイクコースをオープンしました。

【施策の展開】

目標指標 環境を活かしたスポーツ教室・イベントの参加者数11→60(人/年)
アウトドア・スポーツの拠点整備箇所数(箇所) 0→1箇所

◇事業者と連携したイベントなどの開催

- ・ハーフマラソンなどのイベントの開催により、来訪者と市民の交流を深め、市の美しい景色や環境を全国に発信します。
- ・宿泊事業者やアウトドア関連事業者と連携を図り、魅力的なイベントの開催を目指します。
- ・市内の宿泊施設などと連携を図り、滞在型観光の推進を図ります。

◇自然を活かしたスポーツを通じた交流の拡大

- ・関連事業者や地域団体と連携し、安曇野市の特徴を生かした自然体験型スポーツを全国にPRし、多くの来訪者を呼び込みます。
- ・関連事業者との連携や事業者同士の連携を促進し、効果的なPRを目指します。
- ・来訪者に加え、地域の若年層や子育て世帯がアウトドア・スポーツに親しみやすい環境や拠点づくりを推進します。

◇自転車活用のまちづくり

- ・自転車の活用を推進し、健康づくりや青少年の健全育成や観光による地域の活性化、環境負荷の低減などを図ります。
- ・イベントや教室を開催し、サイクリングコースやマウンテンバイクコースの利用を促進します。
- ・長野県と連携したサイクルブランドの構築を図ります。

基本施策⑪ 「する」「みる」「ささえる」スポーツを通じた多様な交流の拡大

【現状の主な取り組みと課題】

○市民のスポーツとの関わりから

- ・平成28年度実施の市民アンケート調査の結果では、今後力を入れるべき取り組みとして「幼児から高齢者まで各年齢層にあったスポーツ活動の機会を増やす」が最上位であり（巻末資料B-2参照）、スポーツを通じた市民や世代間の交流ができる機会を生み出していくことは、今後も重要な視点です。
- ・ニーズの多様化にあわせて、「する」スポーツだけでなく、高い技術にも触れることのできる「みる」スポーツにも力を入れていく必要があります。

○前期計画期間の取り組みの状況

- ・安曇野市では、平成22年度より、市民がスポーツを通して交流を深め、安曇野市としての連帯感を共有するための事業として安曇野市民スポーツ祭を開催しています。6月末の開幕イベントを経て、その後半年間、市内各所にあるスポーツ施設を有効活用して、様々な種目の競技会が開かれています。令和2、3年度はコロナ禍で開催中止となりましたが、これまでの11回の運営を経て、広報・周知などの面を中心に改善を要する部分もみられます。
- ・令和4（2022）年1月に開業したANCアリーナ（安曇野市総合体育館）は約1,000席を有するメインアリーナをはじめ、サブアリーナ、トレーニング室、柔剣道場などで構成されており、団体や個人の利用から各種スクールプログラムまで多様な利用者ニーズに対応しています。
- ・同体育館のオープニングイベントでは、VC長野トライデンツを招致し、バレーボールの試合を行いました。また、本施設は、2028年開催予定の第82回国民スポーツ大会においても正式競技(バレーボール)、公開競技(ダンススポーツ)の正式会場に決定しています。

【施策の展開】

目標指標 国内トップレベルの試合等の誘致 1→2(回/年)

◇高い技術に触れる機会の充実

- ・高いレベルの競技会、国民スポーツ大会をANCアリーナ等で開催することにより、「みる」「ささえる」スポーツの機会を増やしていきます。（「みる」スポーツの普及については、第3次長野県スポーツ推進計画にも言及あり）
- ・国民スポーツ大会開催にあたり、多くの市民が参加、交流できる仕掛けづくりを検討します。
- ・トップアスリートによるスポーツ教室の開催、イベントへの参加などを計画していきます。

◇安曇野市民スポーツ祭の改善

- ・一般の方でも参加しやすい運営方法を検討するとともに周知について工夫します。

◇総合体育館整備を契機にした市内スポーツイベントの整理・統合・拡充

- ・担当課による一括管理により、先行予約を受け付け、円滑に大会やイベント等が開催できるよう利用調整を行っています。
- ・指定管理者との情報共有を行いながら、利用者への支障が生じないように進めます。

◇既存施設の多面的活用

- ・スポーツ合宿等の誘致促進による既存施設の活用と地域の活性化を図ります。

第5章

計画の推進及び進捗管理

1. 計画の推進

本計画の推進にあたっては、行政はもとより、市民やスポーツ関係団体・関係機関などの「協働」により実践していくことが必要です。

このため、本計画について積極的に広報し、周知を図ります。また、市民のスポーツニーズや施策の展開状況を把握・評価し、事業実施に反映することにより、合理的な計画推進を図ります。

2. 数値目標による管理

本計画を推進するため、基本施策ごとに数値目標を設定し、計画の成果を定期的に確認しながら、必要な取り組みを進めます。

表6 目標指標等一覧

基本目標	No.	基本施策	指標(単位)	当初	現状	目標値
				(H28)	(R4)	(R9) 2027
市民の多様なライフスタイルに応じたスポーツ参加の促進	①	子どものスポーツの推進	運動好きの割合(%) ※小学5年生の平均 中学2年生の平均	60.6 <small>(小5、中2の男女平均)</small>	65.2 57.0	70.0 60.0
	②	「気軽さ」で初心者参加を促すスポーツ推進	スポーツ教室・体験会の参加者数(人/年)	76	154	200
	③	ライフステージとニーズに応える「スポーツの場」づくり	20～40代のスポーツ教室等参加率(%) 親子で参加するスポーツ教室の参加者(人/年)	25.7 434	17.5 1,046	40.0 1,200
	④	効果的なスポーツ情報サービス	広報誌、ホームページ、ツイッター等での情報発信回数(回/年)	47	45	60
	⑤	公共スポーツ施設の快適性・利便性の改善	施設利用者アンケートによる満足度(%) 「スポーツを楽しめる環境が整っている」と思う市民の割合(%)	63.8 —	— 36.2 <small>(R3実績)</small>	70.0 40.0
「する」スポーツを支える体制・しくみの充実	⑥	地域で支えるスポーツ推進体制の基盤づくり	スポーツ指導者講習会等の開催数(回/年) スポーツ指導者連絡協議会(仮称)の設立(組織数)	1 0	1 0	3 1
	⑦	健康増進に関わる多様な主体の連携強化	健康づくりに関する庁内連絡会議(仮称)の開催(回/年)	0	0	3
	⑧	総合型地域スポーツクラブの運営支援と新たな体制の具体化	総合型地域スポーツクラブ参加者数(人)	480	636	1,000
安曇野の魅力を活かしたスポーツによる絆・交流・活力の創出	⑨	障がい者スポーツを広める場と体制づくり	障がい者スポーツ教室・イベント開催数(回/年) 障がい者スポーツ教室・イベント参加者数(人/年) 県障がい者スポーツ大会参加者数(人)	0 — —	1 11 14	— 60 25
	⑩	アウトドア・スポーツを核としたまちづくり	環境を活かしたスポーツイベントの開催数(回/年) 環境を活かしたスポーツイベントの参加者数(人/年) アウトドア・スポーツの拠点整備か所数(か所)	1 — —	1 18 0	— 120 1
	⑪	「する」「みる」「ささえる」スポーツを通じた多様な交流の拡大	国内トップレベルの試合等の誘致(回/年)	0	1	2
	参考値	巻末資料 A-1、B-1参照	成人の週1回以上のスポーツ実施率(%)	32.6	—	50.0

※全国体力・運動能力、運動習慣等調査

3. 計画の進捗管理

進捗状況については、スポーツ関係団体や学校などの代表、学識経験者などで構成する「安曇野市スポーツ推進審議会」において、計画の評価及び見直しについての審議をいただき、必要な場合には計画の見直しを行ってまいります。

参考資料

資料A 計画改定に関連する資料

資料A-1 国民のスポーツ実施率

資料A-2 安曇野市内小中学生の体力・運動能力

資料B 前期計画策定時アンケート調査資料の抜粋

資料B-1 市民のスポーツ実施率～世代・性別での相違～

資料B-2 市民の望むスポーツ推進策

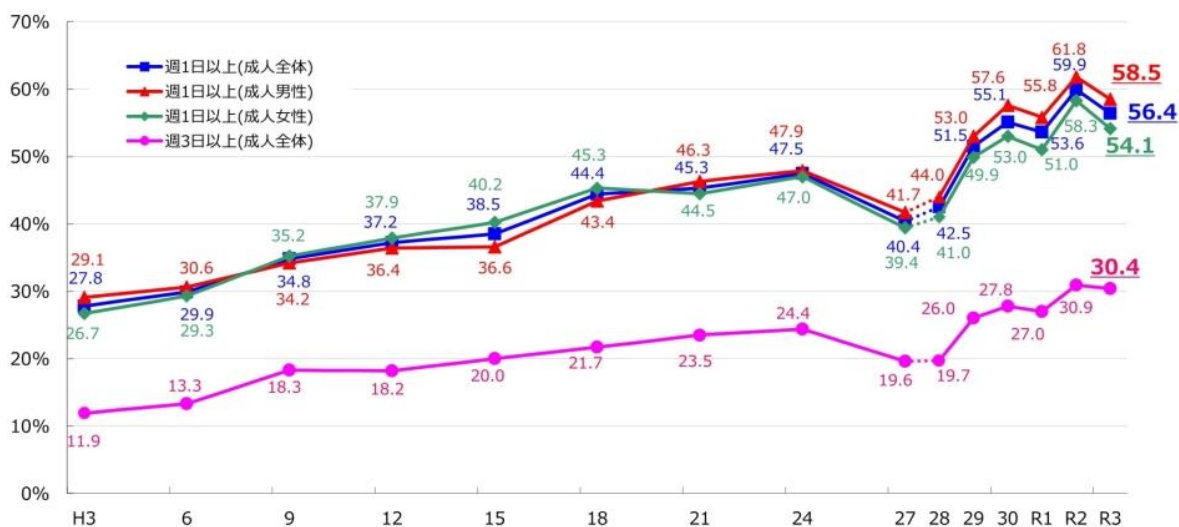
(平成21年度と平成28年度調査の比較から)

資料B-3 中高年世代の身体活動・運動

資料A 計画改定に関連する資料

資料A-1 国民のスポーツ実施率

○全国規模の調査に基づくスポーツ実施率は56.4%（令和3年度）です。コロナ禍を経て実施率が上昇している傾向がみられます。安曇野市の平成28年度調査では、32.6%となっています（資料-3ページ参照）。全国調査での実施したスポーツの選択肢と安曇野市の調査での選択肢や調査年度も異なりますので、あくまで参考値となります。



図A-1-1 全国対象で調査したスポーツ実施率の推移

https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/houdou/jsa_00098.html

スポーツ実施率

スポーツ実施率は、成人で週1回以上運動をした人の比率のことです。ここでは、国と安曇野市それぞれの率の把握方法について補足します。

●国によるスポーツ実施率の算出

国で把握したスポーツ実施率は「スポーツの実施状況等に関する世論調査」で得られた結果を基にして算出された結果です。無作為に抽出した対象者にメールで協力依頼を行い、目標回収数（20,000通）に達するまで回答をWEBで受け付ける手法で調査を行っています。

スポーツ実施率は、国勢調査や農林業センサス等のように、定期的に行う全国一斉の記入調査ではありませんので、この調査では国と自治体の違いは比較していません。

●安曇野市によるスポーツ実施率の算出

安曇野市では、市民のなかから、地域の人口配分、年齢配分に配慮しながら無作為に抽出した2,000名を対象に行ったアンケート調査をもとに算出しています。平成21年度調査以後の変化を把握することに主眼を置きましたので、両年度の調査における行ったスポーツの選択肢は同じです。

実施したスポーツの選択肢も、国で平成28年度に実施した調査と安曇野市の調査では、環境条件も異なりますので、完全に一致してはなりません。前者にはキャンプ・オートキャンプ、釣りなどのレジャー的な要素も含まれています。このことを念頭において比較する必要があります。

資料A-2 市内小中学生の体力・運動能力

例年実施されている全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学5年生男女、中学2年生男女を対象）の平成28年度と令和4年度の結果を比較します。

平成28年当時は安曇野市の中学生女子の点数が全国平均値と比べて低い傾向にありましたが、令和4年度調査では男女とも全国の傾向を上回る結果となっています。

学年・性別	区分	平成28年度	令和4年度
① 小5男子	市T得点	◎51.2	◎51.6
	安曇野市	55.00	53.20
	県	54.20	52.60
	国	53.92	52.30
② 小5女子	市T得点	◎51.0	◎52.1
	安曇野市	56.35	56.20
	県	55.29	54.30
	国	55.54	54.30
③ 中2男子	市T得点	□50.0	◎51.0
	安曇野市	42.11	42.10
	県	42.39	41.70
	国	42.13	41.00
④ 中2女子	市T得点	▼47.4	◎51.6
	安曇野市	46.77	49.30
	県	48.65	47.30
	国	49.56	47.40

【調査内容の概要】

(1) 児童生徒に対する調査

① 実技に関する調査

小学校8種目

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

中学校9種目

握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ、長距離走

② 質問紙調査

(2) 学校に対する調査

子どもの体力向上に係る取組等に関する質問紙調査

※体力合計点：小学校8種目・中学校9種目の記録を年齢別、男女別の換算表により点数化(1～10点)し、その合計点を80点満点で表したものを。

※T得点：全国平均を50点としたときの換算点

※記号：全国と比較しての評価 ◎高い ○僅かに高い □ほぼ同じ ▽僅かに低い ▼低い

図A-2-1 全国体力、運動能力・運動習慣等調査結果(安曇野市)

【補足分析】 「運動が好き」という感覚の重要性

平成28年度の体力の実技テストの合計点で全国平均より低かった中学生2年女子では、運動に対して「好き」という回答の比率が全国平均の46.9%に対し39.7%で4つのカテゴリーのなかで唯一全国平均を下回っていました。

しかし、令和4年度の調査では、小5・中2の男女とも全国を上回る水準に変化しました。

子どもたちの体力を育てる上で、運動が好きという感覚を養うプロセスや、その感覚を得る機会を創出する取り組みの重要性が確認できます。



安曇野市体力向上推進委員会資料より作成

図A-2-2 運動に対する好き・嫌いの比率(安曇野市)

資料B 前期計画策定時アンケート調査資料の抜粋

資料B-1 市民のスポーツ実施率 ～世代・性別での相違～

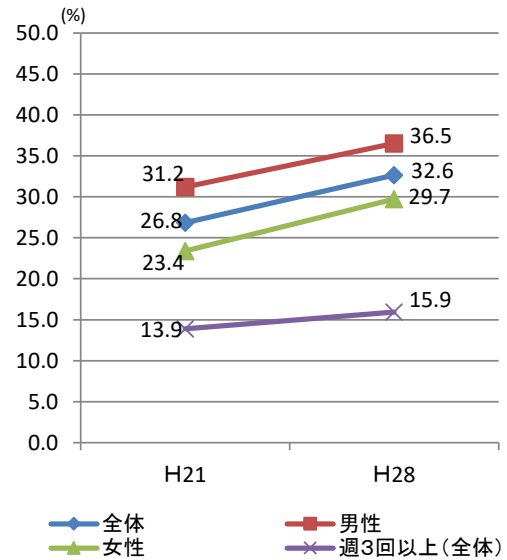
●第1次推進計画(H23～29)の目標値の達成状況(スポーツ実施率関連)

No.	指標(単位)	計画策定当時の値(H21年度)	目標値(H29年度)	現状値(H28年度)
1	成人の週1回以上のスポーツ実施率(%)	26.8	50.0	32.6

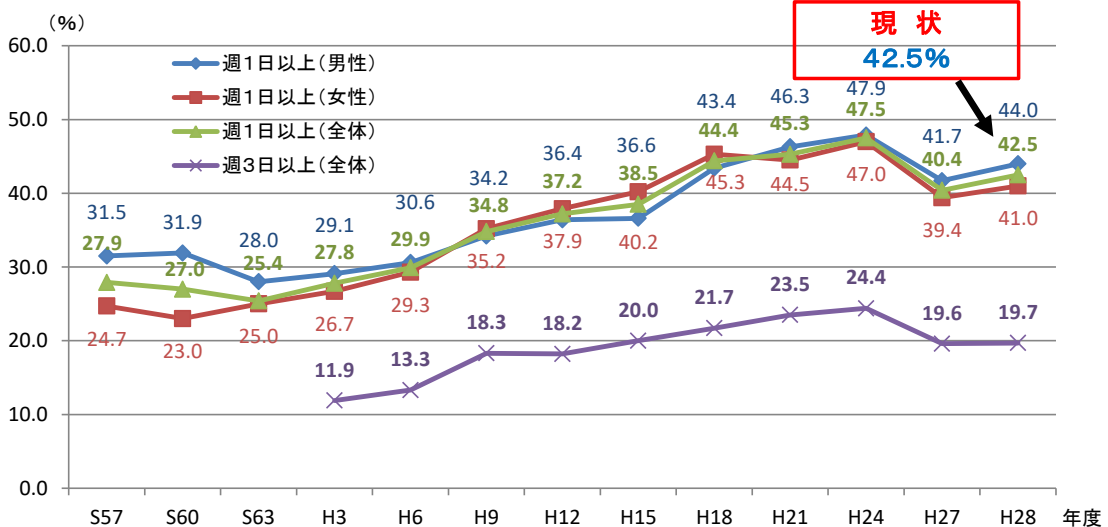
○平成29年2月に安曇野市で実施した平成28年度市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査(市民2,000人を対象、842通回収。以下「市民アンケート調査」という。)では、安曇野市に住む成人の週1回以上のスポーツ実施率は32.6%でした。平成21年度の前回調査と比較して約6%上昇しました。

○全国規模の調査に基づくスポーツ実施率は42.5%であり、これに比べ安曇野市では10%ほど低い状況にあります(ただし全国調査での実施したスポーツの選択肢と安曇野市の調査での選択肢は異なりますので、参考値となります)。

○第1次推進計画の目標値50.0%には到達していません。これは全国対象の調査結果も同様です。



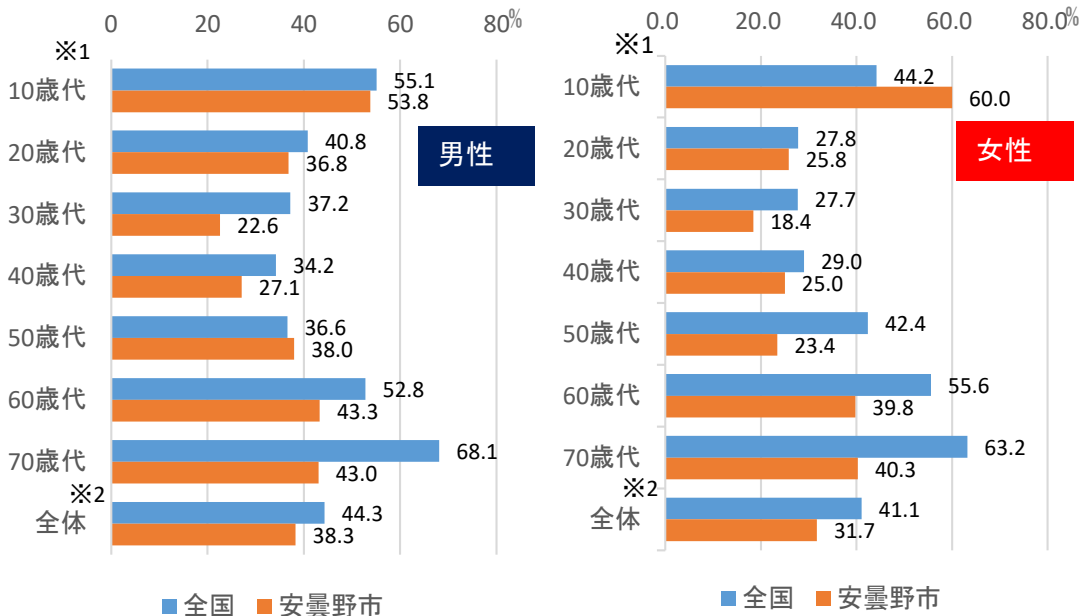
図B-1-1 安曇野市でのスポーツ実施率の推移
(H28年度市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査結果より)



(出典)「体力・スポーツに関する世論調査(平成24年度まで)及び「東京オリンピック・パラリンピックに関する世論調査(平成27年度)」、「スポーツの実施状況等に関する世論調査(平成28年度)」

図B-1-2 全国対象で調査したスポーツ実施率の推移

性別・年代別スポーツ実施率についての安曇野市と全国の調査結果の比較



■ 全国 ■ 安曇野市

※1: 10歳代 = 安曇野市では16~19歳 全国では18~19歳 を対象
 ※2: 全体 = 安曇野市では16~79歳 全国では18~79歳 を対象

【安曇野市の特徴】

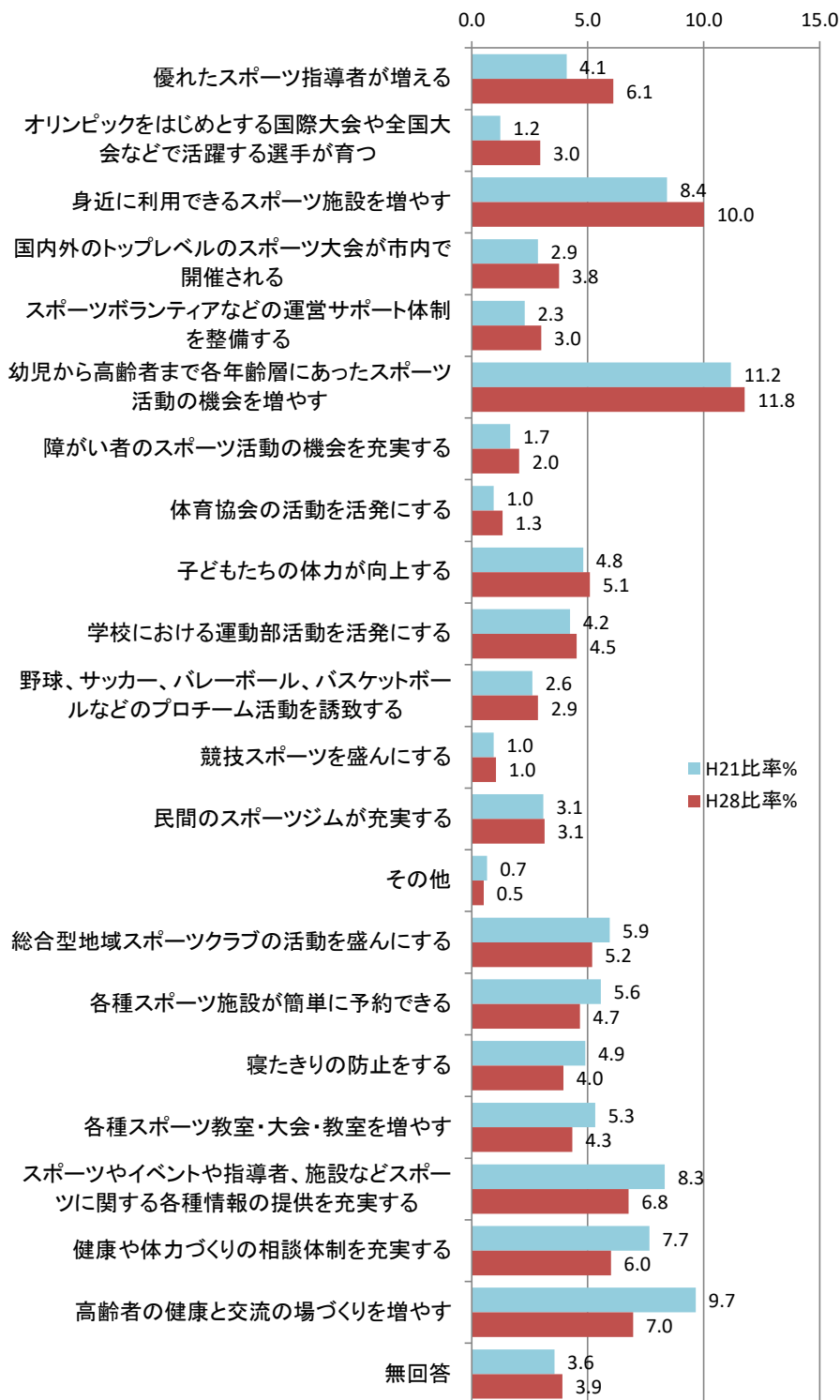
- 全国的な傾向と同様に子育て・労働世代でスポーツ実施率が下がる。
- 60代以上の実施率が全国に比べ、低い傾向。
- 女性の実施率が全国平均の4分の3程度。

図B-1-3 スポーツ実施率の男女・世代別特徴

資料B-2 市民の望むスポーツ推進策（平成21年度と平成28年度調査の比較から）

市民アンケート調査の結果から、安曇野市のスポーツ推進を図るために必要だと思うことを、平成21年度調査と平成28年度調査の結果の差が大きい順（増加率の高い順）に整理しました。

上位に位置したのは、優れたスポーツ指導者の増加、身近に利用できる施設、ハイレベルで活躍できる選手の育成、年齢層にあったスポーツの機会増加、トップレベルの大会開催等でした。



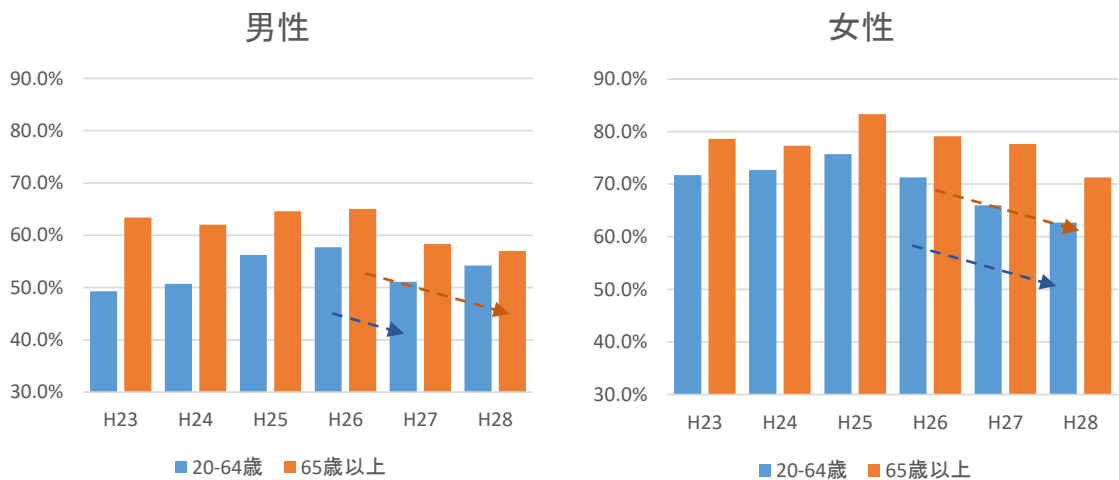
図B-2-1 安曇野市のスポーツ推進に必要な取り組み

（H28年度市民のスポーツ・体力づくりに関するアンケート調査結果より）

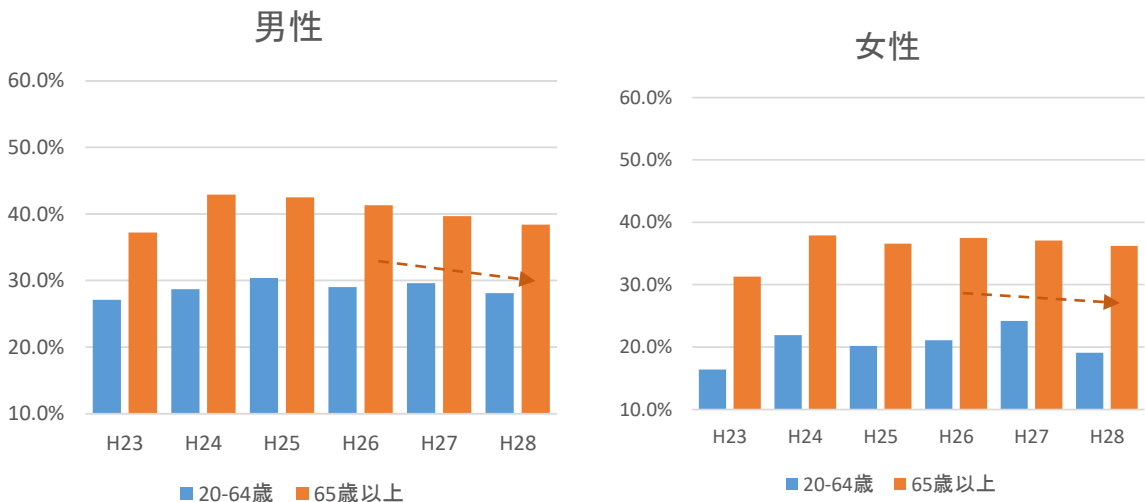
資料B-3 中高年世代の身体活動・運動

特定健診・後期高齢者健診の質問票結果から、「日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施する市民の割合」、「運動習慣者の割合」について、近年の状況を男女・世代の区分でまとめてみると、勤労世代（20～64歳）に比べ高齢世代（65歳以上）でその比率が男女とも高くなっています。

しかし、高齢世代では、平成26年度以降、いずれの比率も低下の傾向がみられます。勤労世代は年度により増減がみられ、日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施する市民の割合は、男女とも平成25、26年度で相対的に高い値となっていますが、その後は幾分低下する傾向にあります。



図B-3-1 日常生活において歩行または同等の身体活動を1日1時間以上実施する市民の割合



(※)運動習慣者とは、1回30分以上の運動を週2回以上実施し、1年以上継続している者
(安曇野市健康推進課資料:特定健診・後期高齢者健診の質問票結果より)

図B-3-2 運動習慣者(※)の割合

第2次安曇野市スポーツ推進計画

(後期計画)

令和6年3月

発行 安曇野市

編集 安曇野市商工観光スポーツ部スポーツ推進課

〒399-8281 長野県安曇野市豊科 6000 番地

TEL：0263-71-2000(代)FAX：0263-71-5000
